

## 第1回 苅田港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会 議事概要

日時：令和3年7月1日（木）14：00～16：00

場所：ブルーポートホテル苅田北九州空港（会議室ダイヤモンド）

開催形式：対面及びWebの併用

### 【議事概要】

（議事2－1：苅田港CNP検討会の進め方について）

事務局より、検討会の開催要綱(案)を説明。また検討会の進め方について、今年中に計3回開催し、苅田港におけるCNP形成に向けた取組の方向性等をとりまとめることを説明。

<構成員等>

- ・ 開催要綱(案)第4条「秘密保持」については、事務局と構成員等で秘密保持契約を交わすことになるのか。

<事務局>

- ・ 契約書を取り交わすことは想定していない。

（議事2－2：国における脱炭素化の取組について）

九州地方整備局より、脱炭素化に向けた政府の動きや、港湾における脱炭素化の取組の重要性、港湾地域から排出される温室効果ガスの削減対策例等を説明。

<構成員等>

- ・ 全国の6地域7港湾において、CNP検討会を先行して実施しているものと理解したが、九州管内では苅田港のみを対象に実施していくのか。その他の港湾でも同じような検討会を行うのか。

<事務局>

- ・ 九州管内では、苅田港の他に北九州港においてもCNP検討会を立ち上げている。

<構成員等>

- ・ 本検討会で成果はどのようなものを取りまとめることになるのか。また2030年、2050年に向けて、とりまとめた成果をどのように実現していくのか。

<事務局>

- ・ 本検討会においては、CNP形成に向けた苅田港の将来像を取りまとめることを予定している。国交省港湾局では、CNP形成の取組を全国に展開していくため、CNP形成計画の作成に関するマニュアルを今後整理していく予定。計画等を取りまとめた後の展開については、現時点で情報がないため、今後の検討会において、適宜、情報共有を図りたい。

(議事 2-3 : 福岡県における脱炭素化の取組について)

福岡県県土整備部より、苅田港の現状と福岡県における脱炭素化の取組について説明。また、福岡県商工部より、福岡水素エネルギー戦略会議の取組や福岡県における水素エネルギー関連の実証事業について説明。

<構成員等>

- ・ 再生可能エネルギーについては、太陽光、バイオマス、風力等があると思うが、これらの各種再生可能エネルギーをどのようにしていく方針なのか。

<事務局>

- ・ 太陽光発電については、比較的広く普及してきている状況だと認識。それに加えて、洋上風力発電をさらに普及させるよう取組を進めている。

<構成員等>

- ・ 福岡県の水素エネルギーに関する取組で紹介のあった「福岡水素エネルギー戦略会議」には、苅田町に立地する企業の名前がない。苅田町にも、水素に関心がある企業が多くある中で、戦略会議にはこうした企業が取り込まれていないのか。

<事務局>

- ・ 戦略会議には約 800 社が参画しており、苅田町に立地する企業も参画している。

<構成員等>

- ・ 苅田港において CNP を形成するにあたり、企業側には様々な課題があると認識。CNP を促進するためには、企業への支援制度が必要になる。この点については、事務局としてどのようにお考えなのか。

<事務局>

- ・ 第 2 回検討会に向けて、事務局から構成員等に対してヒアリングを実施する予定。各構成員から、カーボンニュートラルに関する現在の取組、今後の計画、取組を実施する際の課題を聞き取り、これらの情報を含めて、苅田港における CNP 形成に向けた取組の方向性の事務局案を整理し、次回の検討会でお示ししたい。

(議事 2-4 : CNP 形成に向けた検討の方向性について)

事務局より、第 2 回検討会までに、事務局から構成員に対してアンケート調査を実施し、苅田港における現在の CO2 排出量や、2030 年、2050 年の CO2 排出量及び水素等の次世代エネルギーの将来需要を推計することを説明。また、第 2 回検討会において、構成員より脱炭素化に関する取組の事例を紹介いただくとともに、苅田港における CNP 形成に向けた取組の方向性(案)について議論することを説明。

(その他)

- ・ 苅田町より、今年 7 月 1 日から施行された、苅田町カーボンニュートラルに資する設備投資等促進条例について情報提供いただいた。